



低炭素杯2019 挨拶



低炭素杯実行委員会委員長

小宮山 宏

皆さん!「低炭素杯2019」のファイナルステージに、ようこそお越し下さいました。

低炭素杯実行委員長の小宮山宏です。

昨年、皆さんも実感したでしょうか。日本における夏の猛暑をはじめ世界的な異常気象、地球規模での気候変動など、私たちが身をもって体験するところまで来たのでしょうね。

昨年12月にポーランドで開催された「COP24」では、2015年に採択されたパリ協定実施に向け、確固たるガイドラインが改めて採択されました。今後はこの日本でも、持続可能な「脱炭素」に向けた動きが、早急に必要でしょう。

こうしたグローバルな視点からも、この低炭素杯を、ぜひ、しっかりとご覧になってください。

今日は、日本各地で、地球温暖化防止やCO₂削減などにむけて取組む、学生、市民、企業、自治体、そして小学生や中学生などが、自慢の取り組みを携えて、ここ川崎の地に集合しています。こうした個々の力が集結すれば、それこそ地球規模での温暖化防止に寄与することでしょう。

今日の晴れの舞台に立つ数々の取組、取組む人たちの姿を、会場にいらっしゃる皆さんも、ぜひ目に、そして記憶に焼き付けていってください。

それでは皆さん、「低炭素杯2019」スタートです!

2019年2月8日



低炭素杯2019 挨拶

環境省地球環境審議官

高橋 康夫



環境省地球環境審議官の高橋康夫でございます。

「低炭素杯2019」の表彰式にあたり、環境省を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。

2011年の初開催から数えて9回目を迎えた今年の「低炭素杯」には、全国1,425もの団体からの参加をいただきました。

本日は、その中から、選りすぐりの28の団体の皆様によるプレゼンテーションが行われ、いずれの団体からも、地域に根ざし、創意工夫に満ちた素晴らしい取組が披露されました。

プレゼンテーションをされた皆様、大変お疲れ様でした。そして、文部科学大臣賞をはじめ、既に各賞を受賞されました皆様、誠におめでとうございます。

さて、昨年の夏には日本で、世界各地で酷暑や豪雨などの異常気象による被害が発生するなど、地球温暖化の影響が益々懸念される状態になってきていますが、昨年、12月にCOP24がポーランドで開催され、2015年に採択されたパリ協定を実施に移すための行動指針が採択されました。今後は、国家間交渉から協定の確実な実施へと、気候変動対策が転換していくことになります。

世の中を脱炭素型・持続可能型にシフトさせていくためには、国、地方公共団体、事業者、NPOなどあらゆる関係者の連携が不可欠であり、さらには、国民一人ひとりの意識改革が不可欠な状況であります。

そのためには、私たち一人ひとりが、地球温暖化の危機的な状況を正しく理解し、生活のあらゆる場面で、低炭素型の「製品」・「サービス」・「ライフスタイル」を賢く選択する「COOL CHOICE」を心がけ、脱炭素社会を目指して地球温暖化対策を一層進めていく必要があります。

本日、この場に集(つど)われた皆様には、ここで学ばれた知恵をそれぞれの御地元にお持ち帰りいただき、御地元の皆様に地球温暖化対策の取組の自発的な行動を促していただき、地球温暖化防止活動の輪を一段と拡げていってくださいことを、心より御期待申し上げております。

結びになりますが、地球温暖化防止活動について学びあい、連携の輪を拡げていくための「場」を全国各地にお作りいただいた小宮山先生はじめ実行委員の皆様、貴重なアドバイスを頂いた審査委員の皆様、御協賛・御協力いただいた企業・団体の皆様、そして、縁の下からこのイベントを支えてくださった地球温暖化防止活動推進センターの皆様、最後に大変ご多忙の中基調講演を引き受けた五箇先生に厚く御礼申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の今後ますますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

2019年2月8日

文部科学省総合教育政策局社会教育振興総括官 塩見 みづ枝



低炭素杯2019表彰式に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

本日、各賞を受賞される皆様、誠におめでとうございます。また、惜しくも入賞には至らなかった皆様におかれましても、それぞれの地域において、素晴らしい取組をされているものと承知しております。皆様の日頃からの御尽力に深く敬意を表します。

改めて申し上げるまでもなく、現在、地球温暖化防止を始めとする持続可能な社会の構築に向けた活動の必要性は一層高まっております。「人生100年時代」を迎えようとする我が国において、幼少期から高齢期までの生涯にわたり、一人ひとりが持続可能な社会づくりの意識を高めるとともに、学校や企業、地域での活動等を通じて、課題解決のために具体的に取り組むことが、一層重要になると考えます。

文部科学省としましても、学校における環境教育の充実や、青少年教育施設における豊かな自然環境を活用した体験活動の推進をはじめ、ライフステージに応じた環境教育の推進に取り組んでいるところです。

この「低炭素杯」は、地球温暖化防止に関する優れた取組やノウハウを全国に広げていくとともに、プレゼンテーションや資料展示等を通じて、互いに学び合うことにより持続可能な社会の構築に繋がる、大変素晴らしい取組と考えております。

本日お集まりの皆様におかれましては、これまで培ってこられた多くの経験や知見を活かし、益々御活躍くださいますよう、さらには、地球温暖化防止に関わる活動がより継続的・持続的なものとなるよう、今後の人材育成にもお力添えいただきますよう、お願い申し上げます。

結びに、低炭素杯2019の開催に御尽力いただきました小宮山実行委員長をはじめとする関係者の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の益々の御健勝と一層の御活躍を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

2019年2月8日